



写真：長峰から余市岳に続く稜線
(赤井川村)

も り 北の森林 国有林

今月のトピック

～市町村出向者からのたより～

・占冠村における林業振興について

2
2022
No. 73



国民の森林・国有林

林野庁 北海道森林管理局



占冠村における林業振興について

農林課 林業振興室

室長 根本 治

1. はじめに

私は、平成31年3月末に

林野庁から出向し、現在は
占冠（しむかつぶ）村で勤
務しています。平成25年に
林野庁職員としては初めて
林業普及指導員（地域森林
総合監理区分）資格試験に
合格し、森林総合監理士と
して登録されて以降、網走
西部森林管理署、網走南部
森林管理署の森林技術指導
官を務め、その課程で様々
な民有林支援業務を経験さ
せていただきました。

今回の占冠村への出向で
は、これまで自分が林野庁
職員として培ってきた民有
林支援や技術指導について
民有林側の職員という立場
で自ら実践や検証ができる
良い機会が与えられたもの
と捉え、様々なチャレンジ
を行う毎日を過ごしており
ます。

占冠の地名は、アイヌ語
のシモカブ（Shimokabu）に
由来しており、『とても静
かで平和な上流の場所』を
意味しています。その名の
とおり占冠村は静かで平和、

雄大な大自然を体感できる
森林に囲まれた小さな村で
す。



赤岩青巖峽の風景

私が勤務する占冠村は、
人口が約1200人、森林
面積は約53千ha、森林率
約92%、所管別の森林面積
は、国有林が約48千ha
（約90%）と最も大きく、
次いで私有林約3千ha（約
6%）、村有林約2千ha（約
4%）となっています。

このため、村内の事業体
は、年間の林業就労日数が
平均で200日以下と事業
規模の小さい零細企業であ
り、ブルドーザーなど既存
の作業機械の更新すらまま
ならない状況にありました。

また、本村を担当する森
林組合では、地域の森林施
業を推進すべき『森林施業
プランナー』がおらず、私
有林では、将来的に持続可
能な林業経営を行っていく
ことが難しい状況にありま
した。

このような地域情勢の中
で林業振興を図っていくた
めには、地域の林業を把握
し牽引していくことができ
る『森林施業プランナー』
を誕生させ早急に育成する
とともに、小規模な村有林
や私有林だけでなく、国有
林のフィールドや人材、技
術力とも上手に連携してい
くことができるよう、既存



層積検知勉強会の様子

の仕組みなどをリニューア
ルしていくことが重要だと
考え、各種取り組みを計画
的に進めていくこととしま
した。

2. 林業再興の試み

占冠村史によると、19
70年代、占冠村内には4
つの製材工場が立地してお
り、木材取引税の収入が、
村税歳入の実に8割を占め
る勢いであったと回顧され
ています。もちろん、森林
面積の約9割を占める国有
林材取引の恩恵は多大であ
ったのですが、その後、他
地域と同様に本村の林業も
衰退の一途を辿ることとな
り、やがて豊かな森林資源
は観光産業と融合し、自然
型観光という新たな形で活
用されていくことになりま
した。

近年では、星野リゾート
トマムに代表される自然型
観光分野の発展が顕著な本
村ですが、盛衰の大きな観
光産業に替わる新たな産業
振興の試みとして様々な取
り組みも進めていますので、

検討中の施策も含めていく
つか紹介いたします。

（1）薪の生産と販売

本村では、まちづくり計
画である『第4次占冠村総
合計画』において、森林資
源を活用したエネルギーの
利用を重点目標に掲げてお
り、薪の生産と販売は木質
バイオマス利活用方針のも
と、地域資源の有効活用策
として平成25年から積極
的に取り組んでいます。



薪生産作業の様子

薪の原木は、主に村有林
の間伐作業地から搬出され、
原木（1m³6千円程度）か
ら薪（1m³2万円程度）へ
付加価値化を図ることで、

一定の収益が見込めます。また、重機類や施設は、事業主体の村内事業体3社が合同で営む『一般社団法人木質バイオマス生産組合』に本村が無償貸付しているため、比較的経営基盤の弱い村内事業体であっても、初期投資を抑えることができるほか、林業労働の閑散期における雇用創出の場としても期待されています。

薪の需要は、村内の宿泊施設である湯の沢温泉や保育所、村民の住宅などが主体ですが、薪ストーブの購入や設置に対する補助政策や薪の購入量の増加に合わせ、補助額が増額されるなどの施策改正を実施したほか、コロナ禍の巣こもり需要の拡大により、前年比23%増(約250m³)と堅調な販売となっています。

(2) 地域ブランドに成長したメープルシロップ

平成28年度から、豊かな森林の恵みを活かした取組として、占冠村の村木に指定している『イタヤカエデ』の樹液から精製した『メープルシロップ・トペニワッカ』の製造販売を行っています。



メープルシロップ製品

樹液の採取期間は2月～3月であり、これは民有林補助事業の閑散期と重なることから、本事業についても、村内における林業従事者の雇用確保の場として大きな役割を担っています。また、国内産100%の稀少なイタヤカエデ樹液を原料としていることから、通信販売大手会社Amazonのフード・アクション・ニホンアワードを受賞したほか、令和3年度には『マツコの知らない世界』や『プギウギ専務』などのテレビ番組でも度々紹介され、販売開始からわずか2ヶ月で全ての製品が完売しました。来年度は、5月中旬頃に販売を再開できる見込みです。

(3) 国有林との連携強化

国有林との連携は、これまで過去に何度も実施されてきましたが、その連携内容は単発的であり、継続性のある連携は少ない状況にあります。

このため、令和元年7月には、国有林との連携を一層強化し、地域林業の活性化を図ることを目的として、上川南部森林管理署と本村の間で『占冠地域森林整備推進協定』を締結し、今後は国有林の支援を受けて、森林施業プランナーの育成や村内事業体の技術力向上、持続可能な林業経営と森林資源の有効活用などの取り組みを進めていくこととしました。

具体的な取組内容としては、運材コスト等の圧縮やスケールメリットを活かした木材の有利販売に向けて、村有地内に上川南部森林管理署と本村が共同利用できる土場を設置しました。

また、令和2年度に森林組合と村内の事業体で誕生した森林施業プランナーの育成を加速化させるため、素材の品等格付や層積検知など、原木の評価と販売技

術の向上に資する勉強会を開催したほか、国有林現場では、高性能林業機械の活用による森林施業を推進していくための情報交換会等を開催し、施業技術の向上に努めています。

さらに今後は、森林環境譲与税を活用した私有林整備を一層促進させるため、国有林からの技術支援等を受け、森林施業プランナーが計画的に団地化した森林現場において、高性能林業機械の活用を図る集約化施業の実践、新たな林業の担い手となる新規就労者への技術指導や移住定住促進のための補助、蜂刺され被害等を軽減する安全装備品への補助などについて、持続可能な森林経営を促進させるため、効果ある総合的な施策の実現に向けて検討を行っています。

3. おわりに

私は、20年ほど前に国土交通省へ出向し、今回は占冠村に出向して3年目を迎えました。

市町村業務の中で、いまだに苦手意識のある仕事は、これまで私の業務経験には

ない『議会対応』というものです。村議会は村の方針を決定する重要な場です。

経験のない私にとっては、テレビで観ている国会中継の場に自分が放り込まれ、様々な質問にガチンコで答弁しなければならぬという場面であり、出向当初の6月定例会議では、本村における今後の林業の方向性を問われるなど、口下手の私には苦痛この上ない業務でした。

しかし、様々な対策を計画的に組み立て、自ら必要な施策を企画立案していくという、自発性や創造性をさらに醸成することができました。

今後とも、国有林の林業技術等で積極的なご支援をいただきながら林業振興を図っていききたいと思っております。



占冠村定例会議の様子

根室地域における造林作業の軽労化に向けて

根釧東部森林管理署

【はじめに】

根釧東部森林管理署は、我が国の森林管理署として最東端に位置しており、根室市、別海町、中標津町、標津町、羅臼町内の森林面積の約6割にあたる10万6千haを管理しています。管轄する国有林は、世界自然遺産に登録された知床半島の南面側から武佐岳などが連なる摩周湖までの山岳林、北海道遺産に選定された格子状防風林、根室半島基部の防霧林、野付半島のトドワラ・ナラワラなどからなり、風光明媚な様々な特色を持つ森林からなっています。

【地域の課題】

当署の属する根室地域は水産業、酪農業が基幹産業であることから、林業従事者は少なく高齢化が進んでおり、また現場条件等も厳しいことから、短期離職が起きたり就職が敬遠されたりする状況にあります。特に炎天下での作業が多い造林作業に従事する担い手確保は、急を要する課題のひとつです。

【地域課題への取組】

当署では、地域に適した造林作業等の軽労化及び効率化に取り組んでおり、平成30年度に大型林業機械による地拵を行った箇所に、成長が早くて炭素固定能力が高く、また、野ネズミの食害に強いクリーンラーチのコンテナ苗（コンテナ苗…根の形状が均一で活着率が高く植栽可能期間が長い）の生分解性コンテナと通常のコンテナの2種類とカラマツのコンテナ苗を植栽して、翌年から春と秋の2回、

コンテナ苗の成長量調査を行い、下刈り回数を見直しの検証を行っています。令和3年度までの調査結果では、クリーンラーチのほうがカラマツより成長がよく、また、クリーンラーチのコンテナの種類別の成長の差は、ほとんどありませんでした。

【今後の取組】

収集したコンテナ苗の成長量調査結果や、コンテナ苗活用による下刈り回数の省略化などの利点については、今後開催する地域林業関係者を対象とした現地勉強会で情報共有し、下刈り効率化のため、クリーンラーチのコンテナ苗の利用拡大に向けた理解と普及を図ることにしています。

また、下刈りの機械作業による軽労化に向けての取組として、下刈りの機械化移行の一番の支障である伐採跡地の根株を、大型林業機械による地拵え作業の際に一緒に処理する方法や、刈払いを行わず大型林業機械の排土板で除草した場合の苗木への影響などについて、検証する試験地を今後、設定する予定です。



格子状防風林



成長量調査

コンテナ苗成長量結果表

コンテナ苗種別	調査本数	枯死本数	活着率	成長量
クリーンラーチ（生分解性）	100	5	95%	56.2cm
クリーンラーチ	100	6	94%	56.6cm
カラマツ	100	24	76%	21.9cm

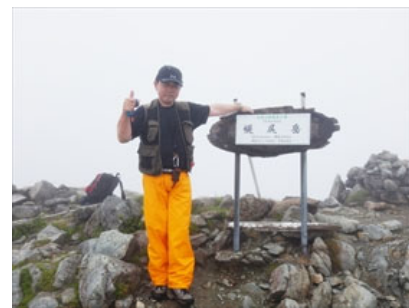
※令和3年度調査結果から算出



シマフクロウ

こんにちは 森林官です！

日高北部森林管理署
幌尻森林事務所
森林官 大谷 光一



【平取町の紹介】

幌尻森林事務所は、沙流郡平取町振内町に所在しています。平取町は、人口約4,600人の一次産業主体の町です。

特にアピールするのは、トマト（ニシパの恋人）・びらとり和牛・すずらん群生地と日本百名山の幌尻岳です。

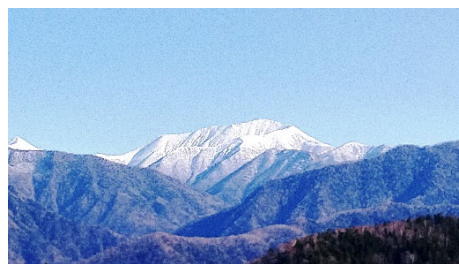
また、平成25年に平取町・平取アイヌ協会・北海道森林管理局の三者で「21世紀・アイヌ文化伝承の森林再生計画」コタンコロカムイの森づくり」協定を締結し、地域と国有林との協働・連携による森林づくりの推進をしています。

【幌尻森林事務所の紹介】

平取町は面積の約85%が森林であり、そのうち約66%の41,510haが国有林となっています。

町内の国有林のうち、幌尻森林事務所の管轄する面積は約15,800haで、日高山脈沿いの奥地に位置し、トドマツやエゾマツの人工林、多様な針葉樹と広葉樹で構成される北海道らしい天然林が広がっています。

また、日本百名山の幌尻岳は、百名山を制覇したい登山者が道内外から訪れ、シーズン中は多くの登山者が登山を楽しんでいます。



振内町内から望む幌尻岳

登山者が幌尻岳をめざすには理由があります。それは幌尻岳が百名山の中でも登山の難易度が高く、簡単には登れない山だからです。幌尻岳の登山ルートは、メインの幌尻山荘側と日高側、新冠側の3つがあります。日高側は野営が必要で登山者に厳しく、新冠側は最近まで登山道が閉鎖されていました。幌尻山荘ルートは標高960メートルにある幌尻山荘（平取町管理）

に宿泊して、頂上を目指すため、比較的容易ですが、山荘までの区間は数回の沢渡が必要で、増水時は非常に危険で、過去には遭難や死亡者も出ています。そのため、幌尻岳は登山者を選ぶ山です。

幌尻山荘はここ2年コロナ禍のため閉鎖されていますが、平取町では、令和4年度からの再開を目指しています。

幌尻山荘から山頂までは4時間程ありますが、カール（氷河の侵食によって造られた場所）やお花畑等素晴らしい景色が楽しめますので、機会があれば挑戦してください。



幌尻山荘ルート途中のカール

【森林官としての業務】

森林官は幌尻森林事務所が初任用で、今年で3年目

となります。任用前にはOJTなどで各種業務を学んだところですが、実際に業務に携わりながら覚えることが多く、1年目から周りの方の協力で何とか今に至っています。

現場では地況林況等調査・森林踏査・境界巡視ほか、各種事業の監督検査等の業務を行っており、ドローンや全天球カメラをフル活用して業務に当たっています。

また、ここ2年は、森林整備のため間伐などの事業を実施しており、監督職員として安全で効率的な作業とするため、日々現場に向っています。

そのほか、毎年、先ほど紹介した幌尻山荘や水力発電施設等の貸付地確認を行っています。10回以上沢渡りを繰り返す、2時間程歩く業務は登山と変わらない辛さがあります。

年を重ねるとともに、山を歩く速度は遅くなっていますが、手術した両膝の負担を考慮しながら、今後も十分注意して歩く事で、長く現場での業務を続けて行きたいと思っています。

も り 森 林 の 話

第 18 話
網走西部森林管理署
西紋別支署
杉本 明優

採用二年目の若手職員のコーナーです

昨年4月に北海道森林管理局 技術普及課から網走西部森林管理署 西紋別支署の業務グループへ赴任となりました。業務が変わったことで、最初は戸惑いましたが、周囲の方々に親切に教えていただき、少しずつ慣れてきました。勉強すべきことは沢山あるので、たくさん吸収し、身につけていきたいと思っています。

【森林環境教育について】

網走西部森林管理署 西紋別支署では、「滝上みどりの森林（もり）推進協議会」という役場や地域の事業者の方などが参加する協議会に参加しています。そこでは、森林環境教育の一環として、近隣の小学校の子供たちに木の種類を教えたり、森林づくりの学習を行ったりしています。

ある時の授業では、ドングリを「拾い」、「植えて」、「育てて」もらうところまでを行いました。

ドングリはブナ科の木（ミズナラなど）からとれ



ドングリを水につける様子

ます。年によって豊作・凶作の周期があり、そういうところにも気を配って事前の準備が必要なのだと勉強になりました。

ドングリは子供たちにとっては身近な存在で、親しみやすさもあって、好評であつという間に集めてもらうことができました。植栽体験をきっかけに、自然や林業に少しでも興味を持ってもらえればと思います。

私は、まだ新人ですが、知識をつけて自然の楽しいところを子供たちに自信を持って教えられるようになりたいと思っています。

【海岸防風保安林について】

西紋別支署管内には、「紋別海岸防風保安林」という海岸林があります。その森林は、海岸から吹く強い潮風から、国道や住宅街、公園など多くの人が利用する場所を守る役割を果たしています。

しかし、海岸に植えた木々は常に潮風に当てられるため、海側から徐々に弱り枯れていってしまいます。

また、紋別海岸の土壌は粘土質で通水性が悪く、生育の難しい場所のため、木を育てるにはいくつかの対策を立てる必要があります。

これまで紋別の海岸林では、かつて農耕地の開拓などによって未立木地となつてしまった場所で、昭和33年頃より森林の造成を行ってきました。主な植栽木としては「アカエゾマツ」が選ばれています。初期成長こそ悪いものの、寒さと塩分に耐える粘り強い樹種のようなです。私が実際に成長調査を行った際には、前年

のデータでは「枯れ」の扱いだったにもかかわらず復活している個体もあり、たくましさを感じました。

樹種の選定の他にも、土の改良や密植、防風柵の設置など多くの工夫がされています。

海岸林の造成を通して、海岸に木を植えることの難しさを知るとともに、木が育ってくれることの喜びを実感しました。今後、海岸林では、方法を少しずつ改良しながら森林の再生と長寿命化を目指し、植栽や本数調整を行っていくなど、よく考えて仕事に関わっていききたいと思っています。

植栽木が順調に育つてくれることを願います。



防風柵の作設

各地からの便り



「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索

バックカントリー 遭難防止の看板を 設置しました！



【日高北部森林管理署】

雪が降り積もり、本格的にウインタースポーツを楽しむ季節になってきました。近年、自然の雪山に登り、スキーやスノーボードを楽しむバックカントリーが盛んに行われております。ゲレンデとは違って、大自然の中で人の手が入っていない場所を縦横無尽に滑られることが魅力となっているようです。しかし、自然の山の中を滑ることには、魅力だけでなく危険性もあります。昨年、日勝峠にある国有林において遭難事故が発生しました。遭難者は無事生還しましたが、一歩間違えれば重大な事故につながっていた可能性があります。今回は、バックカントリーでの遭難事故防止を呼びかける看板を現地に設置しました。例年、バックカントリーの時期に看板を設置しておりますが、今年からデザインを一新しました！

看板には、林野庁非公認キャラクターの「林リン子」をはじめ、北海道警察公式キャラクターの「ほくと」くんも注意を呼びかけております。

「森 mori カフェ～大 人のための森林講座 ～」を開催しました



【北海道森林管理局 技術普及課】

令和4年1月15日（土）に「森 mori カフェ～大人と小学生のための森林講座～」と題した、SDGs 関連イベントを当森林管理局 1 階のウッドィホール及び研修室で開催しました。開発中の北の森カルタ（大人用、子供用）、年輪ドミノ倒し大会！、紙芝居等を通じて、森林・林業への親しみ、木材利用・森林環境への関心を高めてもらう内容です。大人の講座では、SDGs の 13 番目の目標「気候変動に具体的な対策を」を取り上げ、森林の整備や木材利用が、温暖化防止につながるなどの理解を深めてもらいました。小学生の講座では、新型コロナウィルス感染症対策のため、カルタ大会は、お互いが接することのないように、ゲーム形式を取りやめ、カルタを利用した対話で勉強してもらいました。大人と子供の共通講座では、森の紙芝居を楽しんでももらいました。

初冬の支笏湖の森 で子どもたちと一 緒に勉強 ～支笏湖 小森林教室～



【石狩森林管理署】

私が勤務する「支笏森林事務所」は、支笏洞爺国立公園の支笏湖温泉の集落にあります。すぐそばには支笏湖の雄大な自然の中、10人の子どもたちが元気に勉強している千歳市立支笏湖小学校があり、通学するみなさんとは日々挨拶を交わし、また、学校行事参加へのお声がけをいただくなど、地域の一員として楽しく交流させていただいています。このような関係から、12月4日（土）には森林教室を開催することができました。当日は署の森林ふれあい担当職員と一緒に講師を務め、隣接する国有林「支笏湖遊々の森」を子ども達と「冬の始まり」を探しながら探検しました。

みなさんの手に小さな拡大観察びんを配り、森の中で拾った木の実や虫たちを調べてもらいました。好奇心旺盛な子どもたちはキノコや怪しげな幼虫を躊躇することなく次々手に取り、熱心に観察していました。

屈足南小学校 森林環 境プログラム ～楽し く作ろう！♪（エンピ ツ）&（コースター）



【十勝西部森林管理署 東大雪支署】

12月13日（月）屈足南小学校において、今年度第二回目の森林教室を開催しました。今回は森林環境プログラムとしての「エンピツ」と「コースター」作りを実施しました。当日は、3年生、4年生の16名が、思い思いにオリジナルの「エンピツ」や「コースター」を作成、生徒それぞれの個性が満載の作品が出来上がりました。まず、最初に工作するに当たってのポイントや刃物を使用することから、注意点を説明し、その後、「エンピツが発明されたのは、いつ？」などクイズを出題しました。先生に何やらヒントを求めるアクションも飛び出し、大いに盛り上がりました。その盛り上がった中で、最初のエンピツ作りに移行、ビーズで飾りをしたり、バーニングペンで絵を書いたり、どんぐりの殻で先を被せたり、次に作成するコースターも、絵や文字を書いたり、色を塗ったり、ビーズの飾りを付ける生徒もいて、どれも個性あふれる作品が出来上がりました。

北海道森林管理局と上川中部森林管理署は、 旭川市と協力し「旭川市森林絵巻」を作成しました。



このイラストは大雪山系を背景に、そこから流れ出る河川と、その流域に広がる旭川市、地域を代表する森林・林業・木材産業の様子が描き込まれています。

旭川が森林から受ける恩恵と生業を、ぎゅっと詰め込んだイラストを通して、たくさんの方々に森林と日々の生活の繋がりをイメージしていただけたら嬉しいです。

また、旭川市長へ完成報告を行いましたのでこちらからご覧ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/square/kakutidayori/2022/220125.html>



旭川森林絵巻のダウンロードはこちらから

https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/introduction/gaiyou_syo/kamikawatyuubu/shinnrinnemaki.html

広報 「北の森林 国有林」 2月号
 発行 林野庁北海道森林管理局
 編集 総務企画部 企画課
 〒064-8537 札幌市中央区宮の森
 3条7丁目70
 I P 電話 050-3160-6300
 電 話 011-622-5213
 F A X 011-622-5194
<https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>

今月の木 「カラマツ」
 今月はカラマツ冬芽のイラストを表紙の
 月数字の横に掲載しました。
 らせん状につく短枝の先の冬芽（右）と
 枝の先端につく冬芽（頂芽）（左）です。

詳しくは、ホームページの
 「北海道の木のえほん」
 をご覧ください。



今月の表紙